

会報

No.17

1983年10月
日本分子生物学会
事務局発行

◆昭和58年度 第2回 評議員・幹事会議事要旨

日時 昭和58年8月21日 午後4³⁰～6³⁰

場所 北海道厚生年金会館

出席者 内田久雄

藤永 蕙, 溝渕 潔, 大石道夫, 関口睦夫, 鈴木義昭, 村松正実
岡田吉美, 志村令郎, 高木康敬, 中西重忠, 大島靖美, 今本文男
小川英行, 小関治男, 杉浦昌弘, 吉川 寛, 松原謙一, 上代淑人
池田日出男

議 事

1. 昭和58年8月9日現在, 正会員1,342名, 賛助会員24社であることが庶務幹事より報告された。
2. 会計幹事より, 昭和57年度 会計収支決算(会報№16 参照), 昭和58年度 会計収支中間報告, 昭和59年度 予算案が報告された。
3. 昭和59年度 第7回 日本分子生物学会は阪神地区に決まり, 年会会長を松原謙一氏に委嘱することにした。
4. 学会事務を学会センターに委嘱する可能性を引き続き検討することとした。
5. 日本生物物理学会より当学会へ欧文雑誌の発行についての協力を申し込まれ, 編集幹事に検討をお願いすることとした。
6. 学術会議会員の改選にともなって, 学術会議生物々理学研究連絡委員会委員が改選になる。当学会より内田久雄会長と大井龍夫氏の2名を委員として推せんすることとした。
7. 東レ科学技術研究助成金および日産学術研究助成金の推薦団体となる旨の依頼があり, これを承認した。
8. 第12回 国際計量生物学会議(英文名: The XIIth International Biometric Conference)につき主催者側より当学会に協賛の依頼があり, これを了承した。

◆第6回日本分子生物学会年会における総会議事要旨

日 時 : 昭和58年8月23日 午後3時～4時

場 所 : 北海道大学クラーク会館講堂

I. 藤永年会委員長, 内田新学会長のあいさつの後, 総会の議長として北大理学部 岩淵雅樹(進行)及び東大医科研山本正幸(記録)が会長より推薦され, 承認された。議長は委任状152通を含め, 総会の成立を確認した。

II. 経 過 報 告

池田庶務幹事より前回総会開催以降の経過について報告があった。要点は評議員・幹事会記録(前項)参照

III. 議 事

1. 溝渕会計幹事より前年度会計収支決算報告がありこれを承認した。本年度事業計画および予算(中間報告)について説明がありこれを承認した。来年度(昭和59年度)事業計画および予算についての原案が示され, 承認した。

昭和59年度 予 算 案

[I] 収入の部	(千円)	[II] 支出の部	(千円)
1. 学会費等	2,500	1. 事業費	(1,450)
2. 賛助会費	600	会報発行	300
3. 名簿広告	900	第7回年会プログラム	400
4. 前年度からの繰越	1,000	講演会謝金	150
計	5,000	第8回年会補助	600
		2. 評議委員会	(1,100)
		評議委員会開催費	300
		選挙, 名簿作製	800
		3. 一般事務費	(1,600)
		郵便費	800
		印刷費	150
		一般事務用品費	50
		一般事務謝金	600
		4. 予備費	850
		計	5,000

2. フロアーより、若手研究者・院生のかかえる問題の解決およびそれらの人々の連絡組織の結成に分子生物学会としての支持がほしい旨の発言があった。これに対し会長より、他学会でこれまでにそうした問題に対してとられた対応策の有効性の検討も含めて考慮してみたいこと、及び学会内における小グループの活動には既に例もある通り、連絡責任者を明らかにして事務局に申し込めば、会報に案内をのせる等の便宜を図っていることが述べられた。

IV. 報告事項

DNA データバンク運営委員会内田委員長より、同委員会が、文部省特定研究「遺伝情報」総括班の中に設置されていた小委員会を発展解消し、民間側委員も含めて発足したことが報告された。新委員会は、官公民を合せたわが国における一本化された DNA データ・バンクの育成を目的とし、作業を開始するが、取敢えず仮センターを京大化研大井教授のもとにおくこととした。

V. 第7回年会の開催について、松原集会幹事より、時期は昭和59年12月場所は阪神地区を予定している旨あいさつがあった。

◆第11回 核酸化学シンポジウム

共催 日本化学会 日本薬学会 日本農芸化学会 高分子学会 日本生化学会 日本生物物理学会 有機合成化学協会 日本分子生物学会 日本分析化学会

日時 昭和58年11月1日(火)、2日(水)

会場 東京商工会議所4F東商ホール

(東京都千代田区丸の内3-2-2 電話03-283-7799 会場受付直通)

〔交通〕 地下鉄千代田線二重橋駅歩1分、三田線日比谷駅歩5分、国電東京駅および有楽町駅歩8分

第1日 11月1日 —(9時から)—

1. 9:00 ラジカル反応を利用する6位炭素置換プリンリボヌクレオシドの合成(九大薬)。
○末宗 洋, (昭和大薬)宮坂 貞
2. 9:17 2位炭素置換プリンヌクレオシド類の合成(昭和大薬)。
○松田 彰, 佐藤和恵, 田中博道, 宮坂 貞
3. 9:34 5-フルオロ-2'-デオキシウリジン類の簡易合成法(愛媛大工)。
○尾崎庄一郎,

渡辺 裕, 星子知範, 井伊 茂, 香川 匠

4. 9:51 Syntheses of diazaphenoxathiin nucleosides from 3-deazauridine and their chemical properties. (三共化研)
金子正勝
5. 10:08 長鎖架橋ウラシルヌクレオシド類の合成の試み(名大工)佐々木正, 源 勝磨,
中出英雄
6. 10:35 環状ケイ素誘導体を経た保護ヌクレオシドの合成(工技院織高研)。古沢清孝,
坂井 土, 津田圭四郎, (関東学院)志村幸雄
7. 10:52 Carbocyclic Nucleosides の合成と生理活性(東大薬)。有田雅文,
安達邦知, 沢井宏明, 大野雅二
8. 11:09 ヌクレオシドN⁴-アミノシトシン誘導体の合成, 反応性および生化学的活性
(岡山大薬)。根岸和雄, 新田紀子, 山下康弘, 高橋美都子, 原田知佐子,
大原君子, 西沢正彦, 綿矢有佑, 早津彦哉
9. 11:26 N₂O飽和水溶液中5,6-dihydrouracil 誘導体からuracil 誘導体への放射線
変換反応: C5-C6 二重結合の形成(京大工)西本清一, 井出 博, 中道喜
久美, 鍵谷 勤
10. 11:43 6-アルキルプリン類の化学変換(三重大農)。小山司朗, 近藤博己, 熊沢善
三郎, 柏村直樹, (京大農)西田律夫
11. 12:00 N⁶位にメトキシ基をもつ1-, 3-, 7-, 9-およびN⁶-メチルアデニンの
メチル化: 7, 9-ジメチルアデニンの一合成法(金沢大薬)藤井澄三, 板谷泰助,
田中孚美子, 齋藤 徹, 毛利和代, 山本清美, 中坂剛志
12. 13:00 ヌクレオシドホスホン酸の合成研究(徳島文理大薬)。丸山徳見, 木村修平,
堀川美津代, 佐藤佳子, 本庄美喜男
13. 13:17 ヌクレオシドの官能基選択的ホスホリル化法(名大化測機セ)早川芳宏, 安蘇芳
雄, (名大理)。内山 守, 野依良治
14. 13:34 メトキシエトキシメチル基によるウラシルの保護に関する研究 (千葉工大)
伊藤恒彦, 渡辺茂雄, 高久 洋
15. 13:51 ホスフィン誘導体によるヌクレオシドの選択的りん酸化とそのオリゴヌクレオチ
ド合成への応用 (京大工)清水剛夫, 山名一成, 毎熊誠一郎, 老川幸夫
16. 14:08 ヌクレオチドオリゴマーの化学合成。リン酸トリエステル-液相法による poly-
T の合成研究 (理研)。中原義昭, 小川智也
17. 14:35 新しい保護基を導入したユニットを用いるオリゴボスヌクレオチドの合成 (東
工大総合理工, *遺伝研)。上村 孝, 柵木津希夫, 浦上研一, 土屋昌彦, 小浦孝
次, 松崎淳一, 篠崎和子,* 関根光雄, 三浦謹一郎,* 畑 汁明
18. 14:52 7-デアザアデニンを含むデオキシオリゴヌクレオチドの合成と制限酵素による

- 認識 (北大薬) ○小野 晶, 大谷 裕, 佐藤正幸, 上田 亨
19. 15:09 2', 5'-オリゴリボヌクレオチドの合成 (東工大) 平尾一郎, 西野繁栄, ○釜池和夫, 西山伸一, 上田惣一, 山本久尚, 石戸良治
20. 15:26 プトレスニルチミンを修飾塩基として含むオリゴヌクレオチドの合成 (北大機器分析セ) 池田一芳, (北大薬) ○竹田忠行
21. 15:43 ヒト成長ホルモン遺伝子の合成 (阪大薬) 大塚栄子, 谷山佳央, ○岩井成憲, 北野勝彦, 宮本茂実, 大木忠明, 桜川弥生, 藤山和男, 碓 貴臣, 小林 允, 三宅哲雄, 柴原 進, 徳永知子, 池原森男, (北大薬) 小野 晶, 上田 亨, (理研) 田中俊樹, 馬場英夫, 三木鉄蔵, 櫻井昭雄, 大石 武
22. 16:00 ヒト IFN- β 遺伝子の化学合成と大腸菌内での発現 (持田製薬) ○長瀬安数, 中村範夫, 遠山純一, 渡辺慎一, 堀越和弘, 荻野博巳, 新居 淳, 相馬雅明, 延原正弘, 鈴木泰雄, 持田 英
23. 16:17 ヒト- γ -インターフェロン高発現ベクターの造成 (サントリー生医研) ○野村みどり, 大末和廣, 田中正治, 野口照久
24. 16:34 塩基配列およびアミノ酸配列の相同性から見た主組織適合遺伝子複合体(MHC)産物のドメイン構造と exon 重複に基づく分子進化 (新潟大理) ○大西耕二
25. 16:51 4'-ヒドロペルオキシヌクレオシド誘導体の合成と反応——プレオマイシンによるDNAの酸化的切断のモデル——(京大工) 齊藤 烈, ○森井 孝, 松浦輝男
26. 17:08 還元型マイトマイシンCによってDNAへ誘導された熱不安定部位の塩基配列特異性 (京大農, *同女大家政) ○植田和光, 森田潤司*, 駒野 徹
27. 17:35 アミンとの光反応を利用した新しく簡便なチミン残基の決定法 (京大工) ○杉山 弘, 齊藤 烈, 松浦輝男, (京大農) 植田和光, 駒野 徹
28. 17:52 核酸代謝酵素Xanthine Oxidase の多孔性ガラスビーズへの固定化——高速液体クロマトグラフィーへの応用——(京薬大) ○田和理市, 木藤正弘, 竹島繁雄, 広瀬信吾

特別講演 題 未 定

(Yale Univ., Dept. Mol. Biophys. Biochem.) Prof. D. Söll

19:00 懇 親 会 (東商スカイルームにて)

第 2 日 11月2日 —— (9時から) ——

29. 9:00 *Agrobacterium tumefaciens* のTiプラスミドとアデニン系サイトカイニン生産性の関係 (麻布大) ○其木茂則, (東農工大農) 大野陽子, 木島紀子, 菱山 隆, 斎藤広之, 杉山民二, 橋爪 斌
30. 9:17 かび (*Emericella nidulans*) による 2'-deoxycoformycin の生産とその adenosine deaminase 阻害作用 (東農工大農) 神辺智己, 遠藤 章, 橋爪 斌

31. 9:51 スクレオチド5位置換体による末端添加酵素活性の阻害 (愛知がんセンター研) ○小野克彦, 中根英雄
33. 10:08 カイコのグリシン tRNA の修飾ヌクレオチド, 5-[S-Carboxy(hydroxy)methyl] uridine, — その全合成による構造決定 (名大農) ○近藤忠雄, 深見竹広, 後藤俊夫, (名大理) 川上 実, 竹村彰祐
34. 10:35 トルラ酵母のプロリン転移 RNA のアンチコドンに存在する修飾塩基の構造 (名大理, *名大化測機セ) ○小川和子, 近藤忠雄*, 川上 実, 竹村彰祐
35. 10:52 蛍光プローブによるYeast tRNA^{Phe} 中の ψ^{39} 及び ψ^{55} 残基の温度安定性の研究 (東理大理) 永松和幸, 宮沢雄治
36. 11:09 Dループを酵素的に改変したトルラ酵母 tRNA^{Tyr}の調製とそのアミノ酸受容能 (名大理) ○大山 隆, 西川一八, 竹村彰祐
37. 11:26 牛心筋ミトコンドリア tRNA の機能構造 (東大農) ○上田卓也, 渡辺公綱, 太田隆久
38. 11:43 A theoretical and experimental approach to recognition of amino acids by tRNA (宇宙科学研) ○米田茂隆, 清水幹夫, (阪大理) 藤井 敏, (九大理) 郷 信宏, (東大工) 三浦謹一郎, 内田正雄, (東大農) 渡辺公綱
39. 12:00 アメマス精巢の新しい酸性リボヌクレアーゼ: 精巣及びRNAの切断様式 (北大薬) ○伊豆田俊二, 実吉峯郎
40. 13:00 高度好熱菌 *Thermus thermophilus* HB 8 のアミノアシル tRNA 合成酵素 (東大理) 神田大輔, 原 三紀, ○横山茂之, 宮澤辰雄
41. 13:17 tRNA^{Ser} および Seryl-tRNA 合成酵素の CD パターンに及ぼす塩濃度の影響 (名市大薬) ○水谷隆治, 橘 芳夫
42. 13:34 クロロプラストの5S及び4.5SリボソームRNAのリボソーム中での化学修飾 (東大工) 熊谷 泉, (マックスプランク分子遺伝学研) M. Bartsch, A. R. Subramanian, (ベルリン自由大・生化研) V. A. Erdmann
43. 13:51 マウス5S rRNA の過フルタル酸による修飾 (北大薬, 国立がんセンター研) ○三浦一伸, 津田重城, 角地淳二, 上田 亨, 原田文夫
44. 14:08 還元性物質と酵素によるデオキシングアノシン8位の水酸化反応 (国立がんセンター研) ○葛西 宏, 西村 暹
45. 14:35 側鎖にチミンを有するポリアミノ酸の光反応 (阪大工) ○隅田泰生, 稲木良昭, 竹本喜一
46. 14:52 修飾核酸塩基間の相互作用 (阪大産研) ○東井隆行, 坂田祥光, 三角荘一
47. 15:09 ラマンスペクトルによる溶液中の5 GMP の構造解析 (東大薬) ○西村善文, 佐久間郁行, 坪井正道
48. 15:26 5'-ヌクレオチド類とウラニルイオンから形成される鎖体の構造と溶液中におけ

- る動的平衡について (都立大理) 甲斐荘正恒, 高橋 誠
49. 15:43 N⁶-置換アデニン類とポリ-5-ブロモウリジル酸との複合体の性質 (三菱化成生命研) ○樋口成定, 安井久美子
50. 16:00 2'-5'および3'-5'結合オリゴアデニル酸のNMR, CD, UVによる研究 (東大薬) ○沢井宏明
51. 16:17 らせん構造形成時における2', 5'オリゴアデニル酸の特徴(遺伝研, 東工大理, 東工大) ○平尾一郎, 石戸良治, 三浦謹一郎
52. 16:34 核磁気共鳴で見たλフェージオペレーターO_R3のイミノプロトンの挙動 (阪大蛋白研) ○李 尚鍾, 阿久津秀雄, 京極好正, (阪大薬)北野勝彦, 戸塚善三郎, 大田淳稔, 大塚栄子, 池原森男
53. 16:51 高配向Na-DNA繊維の³¹P NMRの相対湿度依存性 (東薬大) ○神藤平三郎, 松本 潮, (阪大)藤原敏道, 阿久津秀雄
54. 17:08 オリゴリボヌクレオチドのSIMS (Secondary Ion Mass Spectrometry) による分析 (東大理) ○田沢一郎, 井上康男, (日立中研)関 節子, 神原秀記)
55. 17:35 左まさZ-DNAの分子構造—そのflexibilityとrigidity— (阪大薬) ○藤井 敏, 松井慶太, 富田研一, 上杉晴一, 池原森男
56. 17:52 TpAを含むZ-DNAのX線構造; d(mCGTAmCG) (M. I. T.) 箱島敏雄, A. J. C. Wang, J. H. Van Boom, A. Rich
57. 18:09 An algorithm for the bonding probability map of nucleic acid secondary structure. (東大理, *三井情報開発) ○陶山 明, 江口至洋,* 和田昭允

参加申込 氏名, 所属, 連絡先および懇親会への出欠を記入し, 下記連絡先へお申込み下さい。

参加登録費 事前4,000円。ただし講演要旨(Nucleic Acids Reserch Symposium Series №12)および別刷100部(演者)の代金を含む。10月9日以降は当日会場にて4,500円

懇親会 11月1日午後7時より東商スカイルームにて6,000円。

送金方法 参加登録費および懇親会費は10月8日(着)*までに郵便振替で口座番号 東京3-31745 第11回核酸化学シンポジウムあてお振込み下さい。*予告では8月末日としていましたが10月8日に変更しますのでご利用下さい。

連絡先 〒183 東京都府中市幸町3-5-8

東京農工大学農学部 橋爪 斌

(電話 0423-64-3311 内371)

◆第12回 国際計量生物学会議

開催期間 : 昭和59年9月2日(日)～8日(土)

開催場所 : 京王プラザホテル(東京都新宿区)

母体機関 : The Biometric Society (IUBS)

主催機関 : 第12回 国際計量生物学会議組織委員会

連絡責任者 : 〒113 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学工学部計数工学科

奥野忠一

(電話(03)812-2111, 内6940)

会議についての連絡先 :

〒103 東京都中央区日本橋2-7-4 竹扇ビル

(株) 国際会議事務局内

第12回 国際計量生物学会議事務局

(電話(03)272-8011 (代))

◆第24回(昭和58年度)東レ科学技術賞候補者推薦要領

1. 候補者の対象……貴学会に関する分野で、下記に該当するもの

(1) 学術上の業績が顕著なもの

(2) 学術上重要な発見をしたもの

(3) 重要な発見をして、その効果が大きいもの

(4) 技術上重要な問題を解決して技術界に貢献するところが大きいもの

2. 科学技術賞……1件につき本賞:金メダル・副賞:300万円(2件前後の予定)

3. 候補者推薦件数……1学協会から2件以内

4. 推薦者……学協会の代表者

5. 推薦手続……所定の推薦書用紙に必要事項を記載し、本会宛1部ご送付願います。

6. 推薦締切期日……下記委員からなる選考委員会を設けて選考し、評議員会において受賞者を決定します。

選考委員 (順不同)

委員長 近藤次郎

今堀和友 三宅三郎 阿部秀夫

岡田節人 櫻井良文 田丸謙二

小口武彦

8. 科学技術賞の贈呈……昭和59年3月の予定

(注) a. 候補者は、必ずしも貴会会員であることを要しません。貴会の関連領域にある候補者についてもご配慮願います。

b. 受賞者は、原則として1件1人とします。特に複数であることを必要とするときはそれらの研究者の寄与が同等であることを示して下さい。ただし、この場合でも1件として取り扱います。

c. この科学技術賞は、所得税を免除されています。

◆第10回(昭和58年度)日産学術研究助成候補推薦要領

1. 助成の趣旨

自然科学を主とする学術の有意義な研究であって、国の助成となるべく重複しないもの(その期間が長期に亘る研究、学際的なグループによって行なわれる研究等)に対し助成を行ない、わが国の基礎学術の向上、進展に寄与しようとするものであります。

2. 助成対象研究分野

助成対象を資源・エネルギー、環境の分野の基礎研究、および応用研究とし、本年度は当該分野のうち次のような研究を期待します。

必ずしも実験を伴う研究のみでなく、いわゆるソフトの研究も含まれます。ただしその場合は調査研究助成として扱います。

- ① 開発に伴う環境の改変が生態系に及ぼす影響に関する研究
- ② 生物指標による人間環境の評価に関する研究
- ③ 新しい原理に基づく環境の分析方法と制御の方法に関する研究
- ④ 環境汚染物質の生体作用における複合効果に関する研究
- ⑤ 病害動物に対する無公害駆除剤の開発、並びに生物学的駆除法の研究
- ⑥ 環境の自然浄化に関する研究
- ⑦ 新しい機能材料に関する研究
- ⑧ 人間—機械系の解析による安全性向上の研究
- ⑨ エネルギーの貯蔵に関する研究

その他、資源・エネルギー、環境の分野における(イ)海洋の利用、(ロ)林産資源の利用、(ハ)輸送システムなどの研究

例示した課題の内容については別添の説明資料(1)をご覧ください。

「調査研究」については別添の説明資料(2)をご参照下さい。

3. 助成対象の研究者

貴学(協会)に関する自然科学分野の研究に従事しており、2～4年の期間を要する上記の研究を行なおうとする研究者および研究グループで、その研究成果が学術の進歩、発展に貢献すると

ころが大きいと思われるもの。

4. 研究助成金額と助成件数

(1) 研究助成金額

○総 額（研究全年度） 約 210,000 千円

○1 件当り助成金額の上限

{ 一般研究…… 30,000 千円（研究期間2～4年）
{ 調査研究…… 5,000 千円（研究期間 2年）

○助成金の支払い

昭和59年度（59/4～60/3）を研究第1年度とし、研究計画に従い年度毎にその所要額を支払います。

ただし、第1年度の交付額は原則として助成額の $\frac{1}{2}$ 以下とします。

(2) 助成件数

調査研究を含めて12件前後を予定しています。

5. 推 薦 件 数

1学(協)会より1～2件とします。

6. 推 薦 者

学(協)会の代表者とします。

7. 推 薦 手 続

所定の推薦用紙に必要事項を記入し、当財団宛に1部をご送付願います。

8. 推 薦 締 切 日

昭和58年11月30日(水)

9. 選 考 方 法

下記委員からなる選考委員会において選考の上、当財団理事会で決定します。

(委員長) 伏見 康 治
向 坊 隆
佐 々 学
田 島 弥太郎
沼 田 真
藤 永 太一郎